

「『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』でありなさい」

ヤコブ5：12

堀田修一 21・7・25

I 「とりわけ、誓うことはやめなさい。天にかけても地にかけても、そのほかの何にかけても誓ってはいけません」：12。

1. これは、洗礼（Iペテロ3：21）、結婚、裁判での証言等のすべての誓いの禁止を意味していない。
2. この御言葉が指す誓いは、神の御名をみだりに使って誓い、自分のことばを信用させようとする不謹慎な行為を指す。ある人々は、神の御名を直接使う事を避け、天や地や他のものを指して誓っていた。しかし、これらも同じ冒瀆の罪。なぜなら、天も地もすべてのものも神により造られたものであり、神に属している。それらを指して誓うことは、神の御名にかけて誓う事と等しい。

II 「『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』でありなさい」：12。

1. この意味は、特別なもので誓わなくても、普段の言葉そのものが、信頼できる信用できる真実なものであるようにしなさいということ。「はい」と言ったら本当に「はい」であり、「いいえ」と言ったら本当に「いいえ」でありなさい。ある人に何かを依頼した時、「喜んでやります」と言われ、後で、他の人から、「あなたの依頼は、あの方に負担だったらしいですよ」と言われたら、がっかりします。依頼した時、正直に「それは負担なので、やれません」と言って下さったら、「別の方法を考えます」と言って関係は保てたろうに思う。「はいといいえ」をお互い、正直に礼儀を尽くして言う事は、愛と勇気がいる事を認め合いたい。「いいえ」と言わず、相手に認められたい誘惑がある。嘘、偽りを言う弱さを認め、言葉が真実であるように祈りたい。真実な神が、すべての言葉を聞いておられることを覚えて語りたい。「あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない」（出20：16）。偽り、うそを言って、ある人の名誉、評判を損ねたりしない。噂に対して、事実が分からず、責任を持って「はい」か「いいえ」を言えないのに、他の人に広めたりしない。敵意を持って偽りを作り出し語ったりしない。ある人の欠陥を言いふらさない。ある人が間違っって悪く言われている時、それは事実とは違いますが（「いいえ」は「いいえ」と）、その人の人格と真実を守りたい。人を中傷する事に加わり、分裂分派に加担しないように祈りたい。「謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさばらず」（Iテモ3：8）。二枚舌とは、「ある人にはこう言い、他の人には別の事を言う」事。それは健全な人間関係、信頼関係を壊してしまう。私たちも、ことばに気を付けたい。子ども達も、大人の不真実を見抜くことがある。※証し。「偽りを捨て、…真実を語りなさい」エペソ4：25。私達は、真実である事で信頼関係を保つ。

2. 悪魔は、私たちに偽りを語らせ、主にある交わり（一つとされたからだ＝教会）を壊そうとする。気を付けたい。悪魔と反対で、私たちの神は、「真理の父、真実な父」。この方の子とされた私達も父に似せられて、偽りではなく、真実を語る者に変えられ続けるよう祈りたい。人と交わる前に神と交わり、神から愛と真実をいただいて人と交わる。心で憎み、表面だけ合わせる偽りを捨て、愛をもって祈りつつ真実に向き合い、愛と真実をもって語り合い、聞き合う。「聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありなさい」ヤコブ1：19。そこには祈りと主からいただく聖なる勇気が必要である。主にあるお互いも皆、ものの見方、考え方、好みは違う事をまず認め合う。愛をもって真実を互いに語り合う関係（エペソ4：15）を育てて行く。初めからうまくいなくても、愛をもって語り合い、「意見」が違って互いの「人格」を尊敬し、愛し合うことができるのが、神が下さる愛→「愛は、寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、不正を喜ばずに、真理（真実）を喜びます。すべてを耐え（おおい）、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを忍びます。愛は決して絶えることはありません」（I コリ13：4～8）。父と子と聖霊なる神は、このような深く広い愛で私達を愛し続けておられる、そしてこの愛で永遠に私達を愛して下さる驚くべき恵みを深く思い、心から感謝したい。

Ⅲ 「そうすれば、さばきにあうことはありません」：12。

神は、私たちのことば、会話のすべてを聞いておられる。この事実を深く覚えて生活したい。「わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだな（無益な。うそ、偽り、陰口、悪口、噂話）ことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです」マタイ12：36。「私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きをすることになります」ローマ14：12。最後の神のさばきを脅えて待つのではなく、この地上で、ご聖霊が気づかせられた時、自分の罪を正直に告白し赦しときよめをいただきたい。その時、神は主の十字架の恵みで完全に赦し、最後の裁きの時には問われない。神に隠したままの罪は問われる。「わたしは もはや彼らの罪と不法を思い起こさない」ヘブル10：17

1. この地上で自分の罪に気づいた時、神に正直に罪を告白する（真実を語る）なら神は赦して下さる。「もし、罪（原語：単数形）はないと言う（罪の性質が示されても、「はい」を「いいえ」と言う）なら、私たちは自分を欺いており（本当の自分の姿から目をそらしている、自分を欺いて自分の虚像を作り上げている）真理（真実）は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪（複数形）を言い表す（具体的な罪を示される神に、正直に「はい、その通りです」と言い、認め、お詫びする）なら神は真実で正しい方（その対極の存在＝神に敵対し、私達を偽りで惑わす悪魔は、偽りで悪い者）ですから、その罪を赦し、すべての悪から私達をきよめてくださいます（私達を真実な主の姿にきよめ続けて下さる）」Iヨハネ1：9。
2. 同じ罪を繰り返さないように、心から祈りたい。「主よ。私の口に見張りを置き、私のくちび

るの戸を守ってください」詩141：3。「必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し」エペ4：29。

Ⅳ ある人を支配したり、ある人から支配される関係は良くない。それを防ぐには、「はい」と「いいえ」を愛をもって正直に言える真実な関係を育てる事である。依頼する人が、「はいといいえ」を正直に言って下さいと言う事は、関係を真実で暖かいものにする秘訣である。ある人は関係が悪くなる事を恐れ、すべて、無理をしても「はい」と答える。しかし、それは、長続きしない。「正直に言って下さいね」という愛の言葉が先にあると、真実な応答が出来易くなる。「実は、お力になりたいのですが、今は、このような事情がありまして。はいと言えません。すみません。出来る時、協力します」。「気にしないで、下さい。今は、ご家族の事情を優先して下さい」と関係は暖かいものになる。高慢な組織の中で「はいといいえ」を言う事は、難しい時もある。しかし、高校野球では、試合が出来ない状態になった時、あるキャプテンは、謙遜に「どうにかなりませんか」と声を上げた。その声に賛同者が多く出て、組織を動かし、公平に試合ができるようになった。自分勝手な「はいといいえ」はいけませんが、礼儀のある真実な「はいといいえ」は、用いられる。国や組織も、適切な世論の声で変わる事がある。組織や力に負けないで、真実な「はいといいえ」を祈りつつ言いたい。神の家族である教会の人間関係で、それぞれの家族（夫婦、親子、兄弟）の中で、支配したりされたり支配しない生きた関係の為に「はいといいえ」を、わがままではなく、適切に愛をもって言えるように祈りたい。誠実、真実な関係となりますように！